

介護の真・常識を八王子から ～貴方も私も感謝の大輪を咲かせよう～

**The True Common Sense of Caregiving from Hachioji
Let's Both You and I Bloom with Great Gratitude!**

グループ名：Sunny Spring Bosses
 當瀬 晴美、中村 春陽
 指導教員 青野 健作

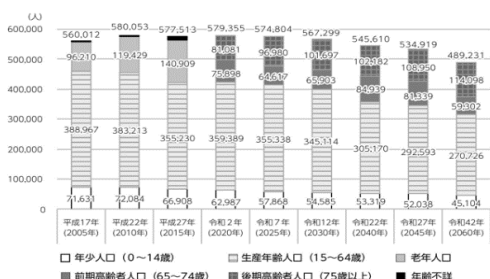
創価女子短期大学 国際ビジネス学科 青野ゼミナール

本提案は、介護職に関する社会課題（人材不足、介護離職など）の解決を目指し、八王子市から介護に関する真の理解を広げ、皆が安心して住み続けられる街づくりを目指すものである。産官学が連携を強化して、八王子市内の介護に関する意識啓発を行うことで超高齢化社会への対策を行っていくことを提案する。

キーワード：高齢者、介護職、離職、ダブルワーク、SDGs

1. 現状分析

八王子市は年齢別で見た人口について、2つの大きな転換期が到来すると言われている。①2025年に“団塊の世代”が75歳以上の後期高齢者となり、介護サービス需要の急増が見込まれている。②2045年に老年人口がピークを迎え、八王子市の総人口が急減する。生産年齢人口が減少する中、2つの転換期を乗り越え、介護サービスの提供体制をいかに維持するかが八王子市にとっての喫緊の課題となる。



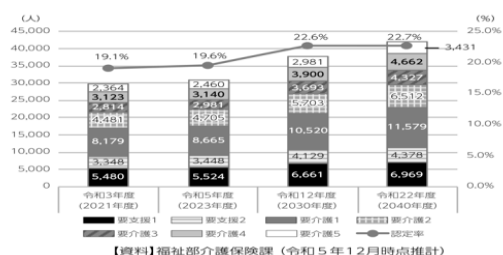
また、八王子市の介護人材の採用は少しずつ増えているが、介護を必要とする人の増加ペースがそれ以上に速いと見込まれている。介護人材が足りなければ、サービスは提供できず、家族などの介護をするために介護離職なども増える恐れもある。八王子市福祉部高齢者いきいき課が提示している八王子市介護人材シミュレーションによると、需要と供給のギャップが2030年に1,617人、2040年には2,001人となると推測されている(下記図)。

	2022	2030	2040
需要	6,695	9,856	11,162
供給	6,695	8,239	9,162
ギャップ	0	1,617	2,001

[単位：人]

【資料】福祉部高齢者いきいき課
 ※本計画のサービス需要見込みと1年間の採用・離職数をもとに、採用・離職数がそれぞれ生産年齢人口に比例して変動すると仮定。

八王子市は、介護需要が増加し、介護保険において要支援認定または要介護認定を受けた数は年々増加しており、令和5年度(2023年度)では、30,923人となっている(下記グラフ)。



2. 提案内容

上記のような現状を踏まえて、介護人材を副業やダブルワーク、アルバイトという今までの一般的ではない人材採用方法で介護人材を増やすことを目的に下記の4点を提案する。

- ① 介護人材アプリの使用推進
- ② 八王子市主催の就職フェアでの啓発活動
- ③ 八王子市公式 YouTube での介護の魅力 PR
- ④ 八王子市の小中学生への介護についての講演

3. 提案の具体案

①介護人材アプリの使用促進

「カイトク」(介護職の資格保有者が利用できる介護単発バイトアプリ)の使用推進を行う。対象者は介護の資格を所有している者とする。

②八王子市主催の就職フェアでの啓発活動

八王子市が運営している「福祉・医療のしごと就職フェア」等のイベントで、介護の魅力をPRする啓発活動を行う。具体的には、ウェブ上のチラシ掲載や実際に参加した際に副業やダブルワークも働けることを説明し、推進する。

③八王子市公式 YouTube での介護の魅力 PR

八王子市公式 YouTube チャンネルにて、介護職をテーマにした動画をあげる。内容は八王子市の介護職の方が親しみや共感性が持てるものにする。

④八王子市の小中学生への介護について講演

八王子市の小中学校を対象に介護職また高齢者の現状や今後の未来についての講演会を実施する。講演者は実際に市内で働いている方が行う。

4. 提案の効果

①結婚や出産を機に退職したが、生活していくためにお金が必要な人が「この日だけ」、「この時間だけ」といった柔軟な働き方が可能になる。

②就職フェアを通じて、実際に「人対人」でのコミュニケーションが取れ、より様々な方法で働けることを知り、介護職に興味を持ってもらえる機会が増える。

③現在、介護職をしている人に励ましや仕事に対する活力を送れ、介護職の離職率を下げるができる。

④今後の将来を担う若者たちに、市内高齢者の状況を認知させ、今以上に働き手が必要になる介護職に対し尊敬の心を持つことができる。また、介護職の魅力も伝わり、講演者も自身の職に対してより自信を持って仕事に励むことができる。

5. おわりに

私たちは日本の問題でもある高齢化社会、介護人材問題を八王子市から現状を乗り越え、新たな社会を実証していきたいと考えている。介護職の方は日々、利用者(高齢者)の身の回りの事、生活全般に寄り添

う仕事をしている。すなわち、介護職は人を生かす職業であると言える。介護は必要不可欠な社会インフラであり、利用者の生活の質を支える重要な役割を担う社会貢献性が高い職である。それにもかかわらず、介護職に対する問題の根本的解決は想像以上に遅く、逆に他職との賃金格差、労働時間などの差は開いていくばかりである。創価女子短大では、昨年、東京都に対して「介護の魅力PR事業」を提案し、その提案が採択され、5700万円の予算を計上し、今年度において公共事業化されている。

このような歩みをしてきた上で、まず介護職の周りにはいる家族、友人、そして、八王子市が介護職について理解していく姿勢を示し、寄り添うことが大切であると考えている。つまり、「寄り添いのプロである介護職の方に寄り添う」ことが大事なのである。頑張っている人に頑張っていると言え、近くで応援できる平和な今の時代に感謝の念を抱き、そして介護職の方自身が明日も頑張ろうと思えること、介護職に自信が持てる社会を実現したい。掘れば掘るほど問題が出てくる介護業界だからこそ、人間と人間の助け合い・支え合い、報告・連絡・相談ができる環境作りといった真(新)の介護の道を八王子市から示していきたい。そして、介護に対するイメージをポジティブにするように大きなイノベーションを八王子市から巻き起こしていきたい。

【参考資料】

・八王子市高齢者計画・第9期介護保健事業計画(2024~2026年度)

https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/welfare/004/001/p033647_d/fil/9kikeikaku_koureisya.pdf

・カイトク <https://caitech.co.jp>

・八王子市公式 HP(高齢者いきいき課)

<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/tantoumadoguchi/012/003/index.html>

・経済産業省 HP(介護政策)

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/kaigo/kaigo.html